

コース名	科目名		対象学年
人体の構造と機能 I	皮膚・運動器		1
開講学期	科目責任者	副責任者	全体資料
2 学期	樋田 一徳		無

授業到達目標

予め配付する講義録をもとに、受講（講義と実習）と自己学習（教科書熟読・グループ学習）による自学自修をバランスよく実行できるようにする。並行して行う人体解剖実習と密接に関連づける。具体的内容としては、下記の事項を説明できることを目標とする。

1. 人体の支柱となる骨を列挙し、骨と骨の連結を系統的に説明できる。
2. 主要な骨格（頭蓋、胸郭、脊柱、骨盤）とそれに関連する器官とその位置関係を説明できる。
3. 頭頸部・顔面の骨格と主要な筋を説明できる。
4. 胸腹壁・骨盤の骨格を説明できる。
5. 関節の構造・種類ならびに関節運動に関わる筋・靭帯の働きを説明できる。
6. 上肢の主要な関節と筋の運動ならびに神経支配を説明できる。
7. 下肢の主要な関節と筋の運動ならびに神経支配を説明できる。
8. 胸腹壁・骨盤の主要な筋を説明できる。
9. 姿勢と体幹の運動に関わる筋群を概説できる。
10. 抗重力筋を説明できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容	コアカリ項目
1	9/ 2	月	2	講義	樋田	解剖	皮膚の構造と機能、体表観察	D-3-1)
2	9/ 2	月	3	講義	樋田	解剖	骨格の構造(1): 骨格系概観, 筋・靭帯・関節の構造、体幹	D-4-1)-1
3	9/ 3	火	1	実習	樋田・小野 野津・中村 堀江	解剖	骨学実習(1): 皮膚の組織	D-3-1)
4	9/ 3	火	2	講義	樋田	解剖	骨格の構造(2): 上肢の筋・靭帯・関節	D-4-1)-7
5	9/ 3	火	3	講義	樋田	解剖	骨格の構造(3): 上肢（上肢帯, 自由上肢）	D-4-1)-7
6	9/ 5	木	1	講義	樋田	解剖	骨格の構造(4): 下肢（骨盤, 自由下肢）	D-4-1)-7
7	9/ 5	木	2	実習	樋田・小野 野津・中村 堀江	解剖	骨学実習(2): 脊柱、全身骨格、胸郭を観察する	D-4-1)
8	9/ 5	木	3	実習	樋田・小野 野津・中村 堀江	解剖	骨学実習(3): 上肢の骨格を観察する	D-4-1)
9	9/17	火	1	講義	樋田	解剖	骨格の構造(5): 背部の筋・靭帯・関節	D-4-1)-3
10	9/17	火	2	実習	樋田・小野 野津・中村 堀江	解剖	骨学実習(4): 骨盤と下肢を観察する	D-4-1)
11	9/17	火	3	実習	樋田・小野 野津・中村 堀江	解剖	骨学実習(5): 下肢の関節を観察する	D-4-1)
12	9/19	木	1	講義	樋田	解剖	骨格の構造(6): 頭部（脳頭蓋, 顔面頭蓋）	D-4-1)-2
13	9/19	木	2	実習	樋田・小野 野津・中村 堀江	解剖	骨学実習(6): 顔面頭蓋を観察する	D-4-1)
14	9/19	木	3	実習	樋田・小野 野津・中村 堀江	解剖	骨学実習(7): 脳頭蓋を観察する	D-4-1)
15	9/26	木	1	講義	小野	解剖	骨格筋の構成(1): 骨格筋の構造と機能、上腕体幹①; 背部の筋、胸部の筋	D-4-1)-4
16	9/26	木	2	講義	小野	解剖	骨格筋の構成(2): 体幹②; 胸部の筋、腹部の筋	D-4-1)-7
17	9/26	木	3	講義	樋田	解剖	神経支配(1): 体幹・四肢	D-4-1)-4

18	9/30	月	1	講義	小野	解剖	骨格筋の構成(3)：上肢；上肢帯、上肢	D-4-1)-7
19	9/30	月	2	講義	小野	解剖	骨格筋の構成(4)：下肢①；下肢帯（殿部・股関節）	D-4-1)-8
20	9/30	月	3	講義	宮本	生理 2	筋の機能(1)：骨格筋の収縮	C-2-1), C-2-2)
21	10/ 3	木	1	講義	小野	解剖	骨格筋の構成(5)：下肢②；下肢	D-4-1)-5, D-4-1)-8
22	10/ 3	木	2	講義	小野	解剖	骨格筋の構成(6)：頸部	D-4-1)-2
23	10/ 3	木	3	講義	樋田	解剖	神経支配(2)：頭頸部	D-4-1)-4
24	10/10	木	1	講義	小野	解剖	骨格筋の構成(7)：頭部；表情筋、咀嚼筋	D-4-1)-2
25	10/10	木	2	講義	宮本	生理 2	筋の機能(2)：平滑筋の収縮、筋のエネルギー代謝	C-2-1), C-2-2)
	10/15	火	1	講義末試験			講義末試験	
26	10/15	火	2	講義	小野	解剖	皮膚・運動器まとめ	D-4-1)

評価方法

[講義末試験] 70% (筆記試験にて行う。)

[実習点] 20% (実習の際のスケッチ点と筆記試験の際の画像試験の結果を総合的に評価する。)

[出席状況 (受講態度)] 10% (出席状況と受講態度を重視し、段階的に評価する。)

[評価方法] 多肢選択試験、論述・記述試験、出席・受講態度評価、実習態度評価

課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて

スケッチはコメントおよび評点を付して返却する。試験直後の講義では、試験内容の解説を行う。

教科書

ISBN-9784784931798, カラー図解 人体の正常構造と機能 全 10 巻縮刷版, 坂井 建雄 (編集), 河原 克雅 (編集), 日本医事新報, 2012/01/11

ISBN-9784260020862, グラント解剖学図譜 第 7 版, 坂井 建雄, 医学書院, 2015/12/21

ISBN-978-4-260-01702-2, 解剖実習カラーテキスト, 坂井 建雄, 医学書院, 2013 年

ISBN-9784860343064, グレイ解剖学 原著第 3 版, Richard Drake, 塩田 浩平 (翻訳), 秋田 恵一 (翻訳), エルゼビア・ジャパン, 2016/02/29

ISBN-9784260034296, 標準生理学 (Standard textbook), 本間 研一 (監修), 医学書院, 2019/03

参考書

ISBN-978-4-525-10052-0, 解剖学講義 改訂 2 版, 伊藤 隆, 南山堂, 2004 年

ISBN-978-4-307-00341-4, 分担解剖学 1 第 11 版, 金原出版, 1982 年

ISBN-978-4-307-00342-1, 分担解剖学 2 第 11 版, 金原出版, 1982 年

ISBN-978-4-525-20311-8, 解剖実習の手びき 改訂 11 版, 寺田 春水/藤田 恒夫, 南山堂, 2004 年

ISBN-978-4-525-10324-8, 骨学実習の手びき 第 4 版, 寺田 春水/藤田 恒夫, 南山堂, 1992 年

ISBN-9784895928380, 臨床のための解剖学 第 2 版, 佐藤達夫 (翻訳), 坂井建雄 (翻訳), メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016/02/26

準備学習 (予習・復習等)

講義の全内容は、講義録として予め冊子として配布する。予習・復習は不可欠で、講義録をもとに、講義前日までの予習、講義当日の復習は必ず行うこと。学習法は講義・実習で教示する。教科書「人体の正常構造と機能 (全 10 巻縮刷版)」・第 11 章：運動器を熟読し、予習・復習することが特に重要である。1 日の講義・実習に対して、予習・復習にそれぞれ 60 分程度必要である。

講義についての注意事項

1. 人体の構造を自らの身体と生命現象を参考に理解してほしい。覚えることばかりに拘らず、人体に興味を持ち、生命の不思議を考えてほしい。
2. 限られた時間で人体構造の概要を概説するので、予め配布する講義録をもとに、各自のメモ、ノートを加えて自分なりの学習法を身につけよう。
3. 質問、学習方法等気軽に相談してほしい。連絡は、1) 教員秘書カウンターを通して連絡 (下記オフィスアワー)、あるいは 2) メールで連絡する。いずれもまず科目責任者 (樋田) に連絡する。

昨年度からの変更点・改善項目

講義を1コマ減らした。
中間試験は行わなくなった。

学生の受け入れ方針や卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について

本科目履修には高校理科・英語等の基礎学力が必要である。基礎医学を深く理解するための科目であり、2年次に学ぶ病因と病態履修や3年次に引き続き履修する運動器系の土台を形成する学問である。

ナンバリング

BPI0117